【4-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	検診臨床重要課題2:「日本人の家族性/遺伝性乳癌の乳がん検診の精度向上」
対象	日本人の未発症BRCA変異保持者
介入	造影乳房MRI
対照	マンモグラフィ

エビデンスの強さはRCTは"強(A)"からスタート、観察研究は弱(C)からスタート
* 各ドメインは"高(-2)"、"中/疑い(-1)"、"低(0)"の3段階
** エビデンスの強さは"強(A)"、"中(B)"、"弱(C)"、"非常に弱(D)"の4段階
*** 重要性はアウトカムの重要性(1～9)

エビデンス総体

アウトカム	研究デザイン/研究数	バイアスリスク*	非一貫性*	不精確*	非直接性*	その他(出版バイアスなど)*	上昇要因(観察研究)*	リスク人数(アウトカム率) 対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標統合値	信頼区間	エビデンスの強さ**	重要性***	コメント
O1:死亡率減少	症例対照／2	0	0	0	0	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	弱(C)	9	乳房MRIの導入からまだ経過が浅く長期経過観察の結果が最近発表されるようになっているので論文数はまだ少ないが有効性が示唆された。
O2:感度	コホート研究／4	0	0	0	0	0	0			42			74	OR	1.8	0.67-0.81	弱(C)	8	家族性／遺伝性乳癌の乳癌発症リスクは非常に高いので乳房MRIの感度がマンモグラフィのそれに比し1.8倍であることは検診という観点からは非常に有用である。
O3:偽陽性率(1－特異度)	コホート研究／4	0	0	0	0	0	0			92			90	OR	0.98	0.89-0.9	弱(C)	7	患者(検診受診者)の最大の不利益である偽陽性率はほぼ同定である。
O4:費用対効果	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	弱(C)	6	対費用効果はMRI検査費用と乳癌リスクに依存すると理解できる。日本のMRI検査費用は欧米のその費用に比べて格段に安く、MRI設置数も多いので検査アクセスも良いので家族性／遺伝性乳癌の未発症を対象にした乳房MRI検査は費用対効果面も問題ない可能性が高いと思われる。

コメント(該当するセルに記入)